

厚生労働行政推進調査事業費補助金（新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業）
分担研究報告書

医療従事者の研修・感染症危機管理に関する情報収集

研究分担者 氏家 無限 国立国際医療研究センター国際感染症センター

研究要旨 本分担研究では、一類感染症等の患者が国内で発生した場合の医療面における課題を明らかにし、特定・第一類感染症指定医療機関における臨床的対応能力を向上させることを目的として、医療従事者向けのセミナーを計3回実施した。各セミナーにはオンラインで380名以上が参加し、参加後のアンケート調査では、聴講者に概ね高い満足度の評価を得た（平均89%）。「日常的な診療に活かすことができる情報が含まれていたか？」という回答に関しては、85%以上が「多く含まれていた」あるいは「やや含まれていた」と回答だった。

新型コロナパンデミック下において、オンライン形式のセミナー開催が一般化したことにより、より広く教育の機会を提供できる体制の構築が進んだ。一方で、更なる臨床的対応能力の向上のためには、チームで演習を行う形式の研修の開催や直接的な連携体制の構築等が課題に挙げられる。感染症を取り巻く状況は常に変化していることから、最新の知識を共有すると共に、オンサイトを含めた継続的な学習の機会の提供が今後も重要である。

A. 研究目的

一類感染症等の患者が国内で発生した場合の医療面における課題を明らかにし、特定・第一類感染症指定医療機関(以下、指定医療機関)における臨床的対応能力を向上させるために、本分担研究では感染症危機管理に関する情報収集を行い、医療従事者向けの研修や教材を作成することを目的とした。

B. 研究方法

本年度は昨年度と同様の研修会に加えて、感染症指定医療機関における感染症の研修実施のための模擬セミナー（一類感染症セミナー）をオンラインで実施した。

倫理面への配慮

該当事項なし。

C. 研究結果

国際感染症セミナー

内容：ヒトサル痘のウイルス学的特徴や臨床症状、日本が備蓄している天然痘ワクチンLC16「KMB」について、動物実験における天然痘ワクチンLC16「KMB」の有効性についての研究結果

開催日時:2022年8月9日（火）18:00～19:30

開催：オンライン

講師：札幌市保健福祉局保健所医療政策担当部長 西條 政幸先生

セミナー登録者：500名以上

アンケート：92名回答

回答者のうち、87%がセミナーの内容に大変満足あるいは満足と回答。満足度の理由として、「ヒトサル痘に対する特徴・ウイルス学的特徴について知識を得ることができた」「ヒトサル痘に関する情報を整理できた」「痘そうワクチンLC16m8の知識を得ることが出来た」が上位3つの理由であった。

輸入感染症・動物由来感染症オンライン講習会

開催日時：2022年11月19日 13:00～17:45

開催：オンライン

セミナー登録者：400名以上

プログラム：

講演内容	講師(名前・所属・役職)
輸入感染症のアプローチ	守山 祐樹・国立国際医療研究センター病院国際感染症センター・医師
マラリアについて	狩野 繁之・国立国際医療研究センター研究所熱帯医学・マラリア研究部・部長
Disease X へのアプローチ	氏家 無限・国立国際医療研究センター病院国際感染症センター・トラベルクリニック医長
Dengue・Chikungunya・Zika	モイ メンリン・東京大学大学院医学系研究科国際保健学専攻国際生物医科学講

	座・教授
マダニ媒介感染症	忽那 賢志・大阪大学大学院医学系研究科感染制御学・教授
耐性菌の輸入	大曲 貴夫・国立国際医療研究センター・国際感染症センター長

アンケート：149名回答

回答者のうち、93%がオンライン講習会の内容に大変満足あるいは満足と回答。満足度の理由(複数回答可)として、「輸入感染症・動物由来感染症に関する知識を身に付けることができた」が52%、「輸入感染症・動物由来感染症に関する情報を整理できた」が46%であった。日常の診療や生活に生かすことができる情報がふくまれていたか、という質問に関しては、87%が「多く含まれていた」あるいは「やや含まれていた」と回答。今後も国際感染症センターが開催するセミナーに参加したいかについては95%から参加希望があった。

感染症指定医療機関における感染症の研修実施のための模擬セミナー(一類感染症セミナー)

開催日時：2023年1月28日 13:00～17:05

開催：オンライン

セミナー登録者：380名以上

プログラム：

講義内容	講師(名前・所属・役職)
------	--------------

新興感染症アップデート	加藤 康幸・国際医療福祉大学・医学部感染症学教授
COVID-19 に対する治療薬	氏家 無限・国立国際医療研究センター病院国際感染症センター・トラベルクリニック医長
新興感染症に対する治療薬	森岡 慎一郎・国立国際医療研究センター病院国際感染症センター・国際感染症対策室医長
患者に対する集中治療	倭 正也・りんくう総合医療センター・感染症センター長
指定医療機関における感染管理および新興感染症発生時の ICN 活動	窪田 志穂・国立国際医療研究センター病院・院内感染管理室 副看護師長, 感染症看護専門看護師/感染管理認定看護師
感染症対策に係る臨床研究について	森野 英里子 国立国際医療研究センター病院・臨調研究推進部 臨床試験調整室長/呼吸器内科医師
感染症法改正について	長江 翔平・厚生労働省健康局結核感染症課・エイズ対策推進室 室長補佐

アンケート：151 名回答

回答者のうち 88%がオンラインセミ

ナーの内容に大変満足あるいは満足と回答。

満足度の理由（複数回答可）として、「新興再興感染症に対する情報を整理できた」が 70%、「新興再興感染症に関する情報を整理できた」が 59%、「感染症指定医療機関における感染管理について理解できた」が 50%であった。講義の中に日常の診療や生活に生かすことができる情報がふくまれていたか、という質問に関しては、86%が「多く含まれていた」あるいは「やや含まれていた」と回答。最もよかった講義の回答の上位 3 は「指定医療機関における感染管理および新興感染症発生時の ICN 活動」「新興感染症アップデート」「患者に対する集中治療」であった。

D. 考察

本研究分担者は、一類感染症等の患者が国内で発生した場合の医療面における課題を明らかにし、特定・第一類感染症指定医療機関(以下、指定医療機関)における臨床的対応能力を向上させることを目的として、セミナーを計 3 回実施した。どのセミナーも聴講者の満足度は高かった(平均 89%)。「日常の診療や生活に活かすことができる情報が含まれていたか？」という回答に関しては、2022 年度輸入感染症・動物由来感染症オンライン講習会および 2022 年度感染症指定医療機関における感染症の研修実施のための模擬セミナー(一類感染症セミナー)で 85%以上が「多く含まれていた」あるいは「やや含まれていた」と回答しており、日常診療に生かせる内容との評価を得た。

新型コロナパンデミック下において、オンライン形式のセミナー開催が一般化したことにより、遠方からの参加が容易となり、より広く効率的に教育の機会を提供できる体制の構築が進んだ。一方で、更なる臨床的対応能力の向上のためには、チームで演習を行う形式の研修の開催や直接的な連携体制の構築等が課題に挙げられる。感染症を取り巻く状況は常に変化していることから、最新の知識を共有すると共に、対面式の研修を組み合わせ、より効果的な学習の機会を継続的に提供することが今後も重要である。

E. 結論

本分担研究において、一類感染症等の患者が国内で発生した場合の医療面における課題を明らかにし、特定・第一類感染症指定医療機関における臨床的対応能力を向上させることを目的として、オンライン形式のセミナーを実施した。結果として、高い満足度を得ることができ、日常診療に生かせる内容が提供されたことが示唆された。

今後は、オンラインセミナーの限界を補うために、対面式の研修と組み合わせることで、より効果的な研修プログラムの提供を検討することが重要である。また、感染症の状況や医療従事者のニーズに応じて、柔軟に研修内容を見直し、適切な情報提供を続けることが求められる。これにより、国内で一類感染症等の患者が発生した場合に、迅速かつ適切な対応ができる医療体制を整えることができると考えられる。

F. 健康危険情報

総括報告書にまとめて記載

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし